

異常気象の夏、そして奥が深い水質問題

真光寺川を清流にする会 山口拓郎

今年の夏は異常ずくめの気象でした。7月初旬、例年より半月も早い梅雨明け宣言がなされたから連日・連夜、猛暑日と熱帯夜が続きました。真光寺川も気象の変化につれて様々な変化を見せました。連日の干天に水位は低下していききましたが、8月下旬のゲリラ豪雨の際は2m近く水位が上がリ激流で両岸の葦がなぎ倒されしまいました。相変わらず、毎朝、大粒の泡が見られました。透視度は必ずしも悪くなく日によっては川底の砂の粒子が鮮明に見える位でした。然し気になるのは水がどろんどろんと濁っていることです。水中プランクトンのせいでしょうか。

環境保全課からの連絡によると4月に矢崎橋で行った水質検査によるとBOD(生物化学的酸素要求量)は1.5でした。清流並みのレベルに選ったことになり。近所にお住まいの環境コンサルタント会社経営の水流さんに伺うと「BODは化学反応の数値を示すもので、雨の後などに一時的に改善されることもあり、1.5もあながち不思議な数値ではないでしょう。長期にわたって水質を調べるには『生物指標』等を併せ調査することが必要でしょう」ということでした。

興味深いのは藻の生態です。5月から7月にかけて茶褐色の気持ちの悪い藻が川底や親水の階段にべったり張りついていました。時にそれが塊となって川面を覆うこともあり。水温の上昇が繁殖を促したのだろうと考えていました。ところが8月に入ると水温が上昇しているにもかかわらず、藻はすっかりなりを潜め萎縮してしまいました。川底一面に張りついていた藻も消えてしまいました。まだまだ判らないことばかりで素人判断はいけないうです

{6月}

6月1日(土) 下堰下流にコイの死骸
コイの死骸が2匹、下流の瀬に転がっていた。
神蔵さんによるとコイは産卵後衰弱して死ぬことがあるとのこと

6月2日(日)「川まつり」中止につき報告
能ヶ谷神社の清掃作業でいわせ市議に会う。
「川まつり」を中止した旨報告したところ「残念でしたね」とおっしゃっていた

6月4日(火)水環境全国一斉調査
国土交通省と河川環境管理財団が「世界環境デー」に行っている河川調査の一環として担当している鶴見川・下川戸橋で測定する。エコネットとして真光寺川、鶴見川、恩田川、境川の12カ所で実施している。真光寺川の下堰のCOD数値は以前の4だったが、最近7に悪化しているのは懸念されるところだ

6月5日(水)里親通信発行・一木会
支所で里親通信を印刷し配布する。鶴三小の

宇都宮副校長に「川まつり」を中止した経緯を説明し了解を得る。「楽しみにしている子供たちがいるのに残念ですね」とおっしゃっていた。18時から魚民で一木会。真光寺中の体験学習の対応や水質改善策等につき打合せ

6月6日(木)真光寺中で出前講座
1年生115名を対象に出前講座。次週の体験講座の予備知識を得てもらうためである。町田の川、真光寺川の今昔、「清流にする会」の活動等につきお話しする

6月9日(日)清掃作業
日差し強い。13名参加する。ゴミは多い。自転車2台引き揚げる。コイの死骸が3匹浮かんでいたとのこと。神蔵さんのおっしゃる様に産卵後の衰弱によるものか。それにしても例年より多いようである。異常気象のせいだろうか、気になるところである

6月13日(木)真光寺中体験学習中止
季節はずれの台風襲来で残念ながら体験学習

は中止となる。後日、飯田先生から出前講座の写真とお手紙を頂く

{7月}

7月11日(木)一木会欠席
夕方、魚民で一木会があったが、連日の猛暑でバテ気味なので欠席とさせてもらう

7月14日(日)清掃日
真夏の太陽がてりつけ気温はグングンあがる。12名が元気に参加。下堰から矢崎橋の間を担当する。オイカワが群れていた。矢崎橋周辺に緑色の藻が生えていること発見。そういえば上流に多く繁茂している黄褐色の汚い藻は見当たらない。水質の違いにより住み分けしているのだろうか。専門家に教えてもらいたいものだ

7月19日(金)悠々園に出前講座
昼過ぎ真光寺川沿いに観察しながら矢崎橋のたもとにある悠々園へ。朝とは全然違った風景に見える。藻の塊が幾つも流れていた。カルガモの一家が昼寝していた。出前講座は3回目前回までの「真光寺川の今昔」「鶴川村の今昔」に続いて「三輪村の今昔」を取りあげる。いずれも真光寺川にゆかりの村である

7月29日(月)「下堰親水」の標示板つく
朝、下堰親水のフェンスに標示板がつけられて
いるのに気がつく。かねてから標識がないので
お揃いのベストで清掃作業



場所がわからないとの指摘があり、南東建に作成を依頼していた。形状も適当で判りやすい

{8月}

8月5日(月)ウメの実大量に落ちる
朝、池のそばに大量のウメの実が落ちているのに気づいた。蠟梅で地味な花を咲かせていたが例年にはなかったことのように思える。池に水を入れにきた五条さんと「こんな立派な実を捨ててしまうのはもったいですね」と話合う

8月11日(日)清掃作業日
猛暑が続いている。会員17名に体験ボランティアの大学・高校生7名を加えて大人数となる。会長から新調したお揃いのベストが配られる。やはり一体感が出ていいものだ。暑さに負けず張り切って作業にかかる。嬉しかったのは元鶴四小で真光寺川学習を熱心にされた平野先生が見えたことだ。リタイアされて時間にゆとりができたので見えたそう。体験ボランティアの学生と下堰下流から矢崎橋近辺を清掃する。魚の群れ、トンボ等の動きが活発である

8月22日(木)樹木伐採実施の連絡
ここのところ川の中の樹木が茂り、所によっては川面を塞ぎ清掃作業がしづらくなっていた。南東建に伐採をお願いしていた。野田さんから作業実施の連絡と写真がメールされてくる。今回は4~5日かけて取りあえず能ヶ谷橋から上流を実施したようだ。さっぱりした

追補

近所にお住まいの水流さんとは下堰で毎朝のようにお会いする。雑談を交わしているが専門家なだけに唆に富んでいる。

- ・真光寺川は結構きれいな川である
- ・住宅密集地帯の都市河川としてはある程度のごよれは仕方ないと思われる
- ・泡については発生源を行政と一諸に追跡してみてもどうだろうか
- ・水質については化学的反応だけでなく併行して藻や水生微生物の「生物指標」を研究した方がいいと思う
- ・人工的に清流に還そうとするとかなりの投資を必要とするだろう。等 (この項おわり)